

平成29年度指導者研修会報告レポート

- 期日 平成30年2月17・18日（土・日）
- 会場 「邦和セミナープラザ」名古屋市

報告者氏名 猪股尚文

【日本連盟出席者】 野際照章 石川雅利 丹崎健一 北本英幸 篠邊 保 山下晴海
佐藤健司 井上光子 足立真一 菊本泰彰 林 昭文 金岡昭和
安達和紀 小野寺剛 高井志保 井上光子 落合 護 百町善明
山本 毅 萬 正一 大八木洋子 高田義治

【あいさつ内容】 石川雅利（生涯スポーツ委員会委員長より）H29年度の指導者講習会について名古屋で実施されることについて説明等がある。

【研修会内容】

《1日目》

～全体会Ⅰ～

野際照章専務理事より「H30事業計画・ソフトテニスの現状と課題」等について

- 会員報37号（会員報を参照ください）の事業計画より国際大会等の説明
 - ・ 運動部活動の在り方の提言についての趣旨説明
 - ・ 日本体育協会の名称→日本スポーツ協会への名称変更（4/1予定）
 - ・ JASPの説明 等

～全体会Ⅱ～ 北本英幸強化委員長、東邦ガスチーム（協力選手）による実技講習からのまとめ

～シングルの指導（オールラウンドプレーを目指す）～

- 守備から入る練習（どう守るか）※守るスペースが広いことへの対応法
 - ・ 準備を早く（具体的には：早く構える）
 - ・ 早くポジションへ入る（例えば、ダブルスで前衛はバタバタすると言われるが、シングルスではその逆となることもある。）
 - ・ プレーの後、動きながら構える
 - ・ 動かされた時に時間を稼ぐ（具体的には：スライスショット、クロスショットへの対応をする。基本クロスショットは「長い方向へのショット」のため）
- 攻撃から入る練習（どう攻めるか）
 - ・ 相手を大きく動かしていく
 - ・ 相手に時間を与えない（少しでも前でプレーをする。ノーバウンドでの返球）
 - ・ 打つコースを予測させない。
- その他
 - ・ ダブルスの時の位置とシングルスの時の位置についての説明
 - ・ 上記の説明から、後、中、前のプレーが必要なのでオールラウンドプレーヤが必要である。だからこそ、小さい頃からシングルスをやる必要がある。
 - ・ 女子のシングルスは、レシーブが有利。だから、サービスゲームが取れると勝利が近づくことが多い。
 - ・ カットサービスの時は、左前方のボールを警戒する必要がある。そのために、返球に角度が付きにくくするために、カットサービスはフォアサイドに入れることが望ましい。

その後、体育館に移動し、北本英幸強化委員長による、スポンジボールを利用した実技講習会が行われ、ショートテニスの試合やボレー・ボレー（左右や前後の動き入れながら）の練習、スライスショットとドライブボールによる乱打の練習などが行われた。

《2日目》

『小・中・高校指導者の連携について』というテーマのもと、合同グループによるグループディスカッションの実施。全15グループに分かれ、2時間程度話し合いを行い、グループごとの発表を行い終了する。

【感想】

本年度で三度目の研修会となったが、昨年度の反省より、実技講習会が行われシングルの戦い方について話がされたことは、今までになく大変すばらしい内容であった。また、2日目のディスカッションで、全国の指導者との情報交換は昨年を引き続きとても良かった。